

Book Preview

富山高校図書館 2025.6



『 城砦 』

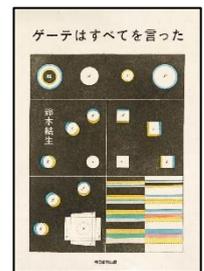
A. J. クローニン【著】

本書は、医師の仕事に情熱を燃やす若き医師アンドルーが様々な苦難に立ち向かう半生を描いたものです。ある時は医療制度に立ち向かい、ある時は富や名声への渴望という自らの欲望に足をさらわれそうになりながら、希望の灯を絶やさない心の軌跡が描かれています。「何のために生きるのか?」「何のために働くのか?」そんな人生の難問に出逢った際、きっと本書から得るものがあるはずです。いつの時代であっても生きていければかならず遭遇する苦難や人生の落とし穴。あなたはどうか対応しますか。

『 ゲーテはすべてを言った 』

鈴木 結生【著】

高名なゲーテ学者・博覧強記のディナーで、彼の知らないゲーテの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求めて、膨大な原典を読み漁り、長年の研究生活の記憶を辿る。ひとつの言葉を巡る統一の旅は、創作とは何かという深遠な問いを投げかけながら、読者を思いがけない明るみへ誘う。若き才能が描くアカデミック冒険譚! 第172回芥川賞受賞作。



『 逃亡するガール 』

山内 マリコ【著】

スタバで勉強中の優等生・山岸美羽に飛んできたペーパーナプキン。“気をつけて。盗撮されてる”。窮地を救ってくれた浜野比奈と放課後を過ごすようになるが、次から次へと思いがけぬ形で追い出されてしまう。家に居場所がないと感じている美羽、パパ活のようなことをしている比奈、それぞれの事情が明らかになり…。『ここは退屈迎えに来て』から12年。著者が初めて地元・富山を舞台に描いた、受け身でもなく、逃げるだけでもない、「いまの、その先」の物語。

『 藍を継ぐ海 』

伊与原 新【著】

数百年先に帰ってくるかもしれない。懐かしい、この浜辺に——。なんとかウミガメの卵を孵化させ、自力で育てようとする徳島の中学生の女の子。老いた父親のために隕石を拾った場所を偽る北海道の身重の女性。山口の島で、萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男——。人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来。きらめく全五篇。



『 続・泥流地帯 』

三浦 綾子【著】

突然爆発した十勝岳の泥流は開拓部落に襲いかかり、一瞬にして、家族の命を奪い、田畠を石河原に変えた。地獄と化した泥流の地から離散していく人々もいるなかで、拓一・耕作兄弟は、祖父・父の苦労の沁み込んだ土地を、もう一度稲の実る美田にしたいと、再び鋤を手にする。そんな彼らに、さらに苦難が襲いかかる。苦闘の青春を描き、人生の報いとは何かを問う感動の完結編。